

敬和学園大学と地域社会を結ぶコミュニケーション誌

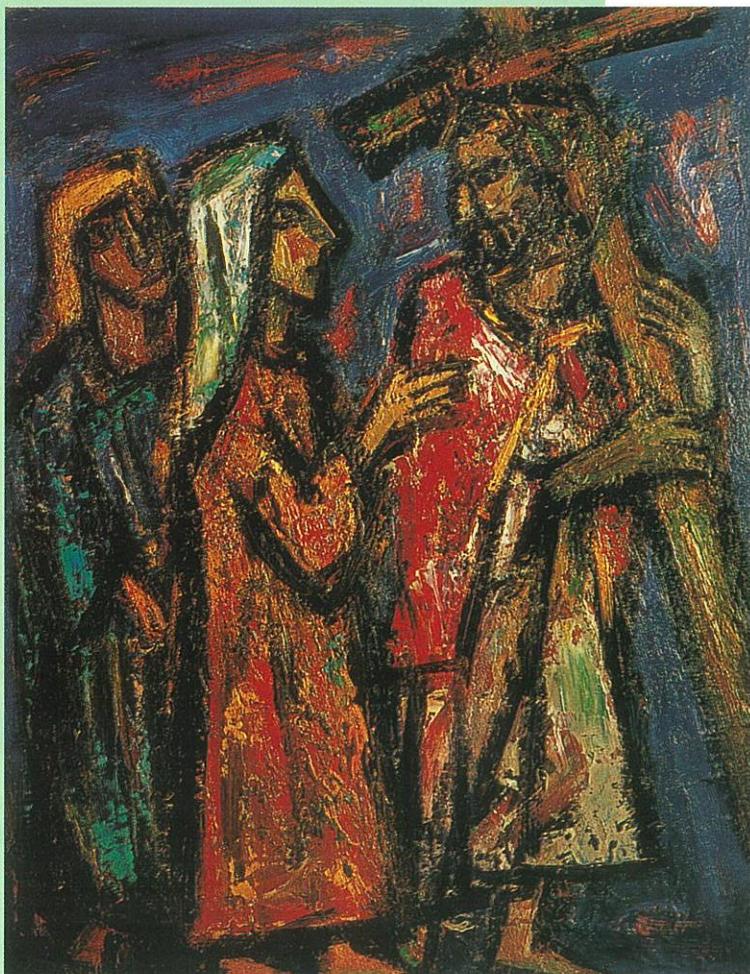
KEIWA

COLLEGE REPORT

第11号

(APRIL 1997)

発行/敬和学園大学広報委員会



CLOSE UP 困惑する世界——国際政治論の合間に

就職協定廃止によって今年の就職活動はどう変わるか
退職教員の挨拶／学内企業説明会開催

1997年度入学試験を終えて／学長室だより

「讃美歌21」——新しい讃美歌の息吹／学生諸君のホームページを覗く
君はヘイル・ボップ彗星を見たか？



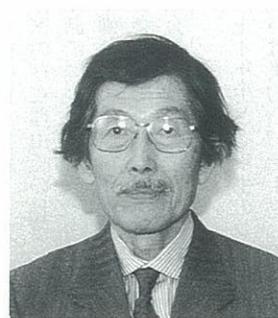
3月20日快晴の中、第3回卒業式が新発田市民文化会館で執り行われました。写真は卒業生代表の志賀礼子さんが答辞を讀んでいるところです。各学科の成績最優秀者もその他の表彰も全て女子学生でした。男子学生の奮起を期待します。

卒業式後、新潟グランドホテルにおいて、卒業祝賀会が開催され、卒業生から大学あてに屋外掲示板の目録が贈呈されました。校舎の増・改築工事の関係で設置は後日になりますが、心から御礼申し上げます。



もくじ

困惑する世界—国際政治論の合間に	
小野 哲	1
高等学校チャペル起工式	3
就職協定廃止によって	
今年の就職活動はどう変わるか	4
学内合同企業説明会を開催	5
敬和学園大学の退職にあたって	6
校舎増築工事	8
1997年度入学試験を終えて	9
学長室だより	10
「讃美歌21」—新しい讃美歌の息吹き!!	11
学生諸君のホームページを覗く	12
CPU教室のパソコン入れ替え	12
君はヘイル・ポップ彗星を見たか 北垣宗治	13



困惑する世界

国際政治論の合間に

教授 小野哲

家認識のとり違えから、判るはずのこととも情念抜きで論を立てるから、当然解らなくなる。それで悪戯めかした領分に範晦（トウカイ）してそのうえに困ったことには聖なる外装を凝らし、権力の悪霊にそそのかされて十字軍を再演する。

この旧世界の聖俗混交を逃れても、倫理に頓着なしに新大陸でのわがまま気ままと侵略が横行。侵略略に王、女王も加担の世界が陸の帝国と海の帝国。

礼讃も作法も無賴の裏打ちの外交に化粧されて、国際世界が止めようもなく進展する、それを後追いする評論が、国際政治論の主流となつた。

帝国主義国家が幾重にも重なつて、真因も定かでない幾通りもの戦争が繰り返される角逐の行く末を解説し、更に状況の展開に応じて、虚実不明の冷戦対抗をこちたく語り、その推移が対抗相手の突然の転倒に及ぶと、解説は停頓するにいたり、向こう見ずの猪論理の他は困惑の世界に暗転。

20世紀後半の国際政治論はこのよくなされたから、新情勢の度にまこと右往左往する領域となつた。

もともと西欧に17世紀に出現した主権国

の昨今に至つてなお、今さらのごとく、お

アジアアフリカの難民について³
国家と社会の種類 アジアのいま昔²

始めの頃の旅客機 難民²
環境の中のART 捕鯨² 今日の宗教
シンガポールの印象 環境破壊
戦後の世界状況 中国
村の神と家の神 中国の内政と外交
米騒動と社会政策
帝国主義 政治と宗教³ ソマリア
以上4年生から。
ヴァイキング伝説
日本軍政下のアジア
スターインの死 民族分断下の朝鮮

もしも半分の「パン！」が経済界にまかり通る不透明のままに、これでは国際政治までが情報過多社会の評論めぐ始末。

そんなこんな国際政治論であつたが、最終講義が終われば試験の季節。

早い人で11月末、遅いと1月半ば迄に提出されたレポート題名をあげれば――

CLOSE UP

朝鮮の食住 ベルギーの言語民族問題

日本2 日本の憲法 アメリカ合衆国

遣唐使船は粗悪な舟なのか

東南アジア

なぜアズマは独立しなかったのか

欧州統合 東欧2 政治

ソビエト社会主義連邦の崩壊

マルクスの哲学と社会主義

大東亜戦争 中国近代化

理念なき経済援助 飲料水の消毒

石油事情 ネパールの家族計画

事前準備の重要性 水の浄化利用

人という環境 民族紛争 民族問題

東亜における国家シナリオの将来性

環境に与える人間の影響 冷戦

構図のない世界 中国と日本の未来

占領された日本その後 日本の技術力

社会共産資本主義 インド独立と

国家の存在理由その目標 環境問題

童話について ロシアの民族問題

軍備とその管理 個個的な国旗

社会主義について再提出 無題2

社会主義の破滅をどう考えるべきか

以上4年生と3年生のレポートから酷似の題目は集約し、テーマとのギャップは趣旨本位に集約した。内容の質は想像におまかせしても、しっかりと敬和らしいのが年々増えたことも付言したい。かなりの分量を紹介したのは、切り捨てるに不公平で無残だからで御容赦を。

国際の倫理が怪しいと書き始めたが、倫理の目茶苦茶は国内も同様で、全社会を覆っている現代の病弊かと疑われて、かのエイズどころでない陰湿な流行の倫理廢退はさ

ままの兆候をみせている。

些細といえばササイだが、往来する旅行者の車内も高速道路一般道路を問わず、場内外での不作法な携帯電話は、新幹線車内にかぎらずさまざまだ。

ローカル線も国内どこも高声を発し囂張しい（カマビスシイ）女3人組と学生の着席風景、男も女も不作法で、小中学生を含めて駆けの問題。それにいじめの問題も広範に蔓延して凶悪化、差別の人権の同権の言い立てる者自身の身勝手。

まったく隠者か仙人になりたい気分。

とんだ脱線ついでに、ルーズソックスと茶髪の奇妙な流行について。
いずれも敬和には深いかわりはないが、なぜか幕末の漂流綺談をおもいださせる。

それは中浜万次郎ではなくて遭難のとき同船の漁師という。運良く救助され渡米し中万と別の遍歴経験のあと、琉球四国長崎江戸をたらい回しにされる。

中万は才幹を認められ旗本に取り立てられるが、そこまで自分の運命に挑戦できなかつた男は、それでも横浜の英國公使館のボイイ兼通弁になる。が倫理観の欠落から自ら国籍を立てて自称英人、ボイイ某と名乗り揚げ句に洋人に娘子紹介を働いて僧侶の生娘を周旋するなど、さらには赤穂浪士の侮辱を、墓前で毛唐相手に慢慢したから、折からの攘夷斬奸標的にされて斬殺され英公使館前に立札付きで曝される。

立ちに曰く「伝吉、なんじ夷奴に媚び國辱をさらし、その罪恕しがたし。仍て天罰を加える者也」 万延元年 庚申正月七日 斬姦有罪」

軍艦威臨丸で条約批准使の先駆として品川沖に出航準備中であった。

この話からルーズソックスや茶髪にたどり着くには「風が吹けば桶屋が儲かる」ほどのロジックを渡るだろうが、アラブ鬚や出し帽となら整合性の問題はない。

国際政治論は我が邦ではまだバタクさんの抜けない異人論で、目前の倫理の発生のチャンスは意外と乏しい。古いところでは徳川のさなか中国が異国の筆頭であったころ江戸から品川に西に転居して中国に近づいたと悦んだというウソが真と伝わる。

幕末脱国渡洋の熱氣は、公然の遣唐使以来の渡歐渡米の実践に。この邦の近代化の原動力もこれで。

行き過ぎては脱亞入欧のくどきや、ステッキの先で神殿を冒す悲惨な国際感覚の主の出現となる。

とんだ文部大臣で、洋風仕立ての植民地政策の犠牲は勿論朝鮮であるが、植民地化の首謀仲間の伊藤も文部大臣も襲撃的になる。

そんな災難ぐらいで抜けるバタくさでないから、海軍は英國の陸軍は仮想の手本に従い、万国公法に忠実であろうとし、少なくとも国際法順守は日本の金看板であったが、占領のどさくさでその功を、殆ど無にされた。条件降伏も新憲法制定もそして安保もその眞の経過は、タブーのままである。戦前のタブーの大半は自前で、バタくさタブーは帝国と皇帝ぐらいか。戦後のタブーの方はすべてバター仕上げである。

それも仕方ないが、気付かずハハ呑気に泰平の御託を守ろうとしても、21世紀には通用すまい。これらについて新学期から気

を入れて勉めるつもりである。

国際政治論は9時からである。

環境人間技術1の方は、主に原理の解明。

これもやり方次第でバター仕立てになります

ねないがラディユリにかこつけるには及ま

い。ましてウェーバーのマルクスのと先祖

帰りするわけにはいかぬルソーにしても、

だからカントも社会の変遷機構の今日的状

況のまえの段階の認識者であるから現代の

構造的理解の先覚者に準えるわけにはい

かない。祖が古すぎるレーニンもスターリ

ンも同様である。バタクサ技術の怪談は

「下水道処理」ではじめたい。ついでにワ

リパンの怪談もするつもりである、これは

森林破壊についてのおそれものであるが、

社会史観に関しては、殊にバタクサをさ

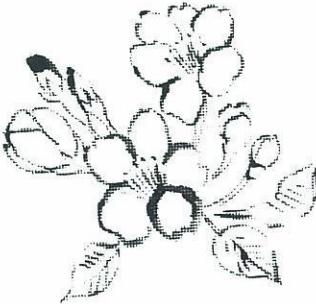
ける深い理由があるのだがそのわけは今は

4月の開講あとのお楽しみとした。

なお、こっちは4講時で14・40から。

春の清明に恒例になっている、飛行器の
パフォーマンスは白に衣替えしたカラスの
予定である。いやどうも。

CLOSE UP



高等学校チャペル 起工式



敬和学園高等学校のチャペルの起工式が

一月二十二日厳しい寒さの中執り行われました。悪天候のため式典は創生館一階ロビーでしたが、鍼入れは予定どおりテントの中で行われました。写真は、理事長、校長の鍼入れの模様です。

総工事費は六億円、財源としては、自己資金二億円、寄付金二億円、学校債二億円を予定しており、募金及び学校債募集については、現在全学園をあげて全国に展開しております。

会社等からの寄付金については、日本私

学振興財団を通じての受配者指定寄付金の認可をいただいており、全額損金算入が可

能となるほか、個人からの寄付金について

は、特定公益増進法人への寄付金として、税金控除が受けられます。

詳しくは敬和学園高等学校事務室へ

◎建設設計画の概要

■鉄筋コンクリート 一部大断面集成材
地階1階 地上1階 一部2階

■延べ床面積 1,599.29m²

一階床面積 1,472.27m²

地階床面積 82.57m²

■用途

1階：チャペル（764名）・記念室兼応接室
・控え室等

地階：機械・電気室

■その他 チャペルには将来パイプオルガン
を設置 床暖房

就職協定廃止によって

今年の就職活動はどう変わるか

就職相談室長 石田幸夫

長年に亘って実施してきた「就職協定」が今年廃止されることになった。

この就職協定とは「学生の就職活動の秩序と、正常な教育環境を確保することも、就職機会の均等を期すこと」を目的に企業側・大学側双方により求人票の取扱い、会社説明会等の開始日、選考開始日、内定開始日等を定めたものである。

本学が加盟している私立大学連盟では昨年12月2日に開催した就職指導ガイダンスで、平成9年度の就職協定は平成8年度と同様の内容で継続することを確認した。ところがその二日後、企業側の代表世話人である日経連の根本会長から私案しながらも「守られない就職協定は廃止すべき」との強行発言が飛び出した。この根本発言に對しその後大学側では文部省を交えて企業側との話し合いを重ねてきたが、結局は「正式内定日は10月1日以降」を残し平成9年度の就職協定は廃止となった。

確かに今まで就職協定が完全に守られていた訳ではない。しかし守られてはいなかつたが就職協定はそれなりに機能していた。

ちょうど高速道路の速度制限のようなもので、高速道路には100キロの速度制限

があるからドライバーはこれを越えるスピードの出し過ぎに気が付くとスピードダウンをする。

これと同じで、今まで就職協定があったから企業も協定も基本理念を尊重しつつ、あまり無茶な採用活動は差し控えて来ただと思う。

しかし、今年はその規制の枠がなくなつたため、一流企業として信頼を集めれる資生堂がいち早く三月の中旬に応募〆切り、下旬に選考を行うという今までには考えられなかつたような採用活動を行うと発表した。この資生堂に刺激された訳ではないだろうが、各企業の採用スケジュールは昨年に比べ大幅な前倒し傾向にある。

しかし、学生の方は学事日程の関係もあり企業のそういう情報を受け取れないのが現状である。現に三月中に開催する会社説明会の案内ポスターが数多く大学に届けられているが、これを掲示しても春休み中のため極く一部の学生にしかその情報は伝わっていない。

我々就職相談室としては、こういった企業の動きを見極めながら学生に対する就職指導を行ってはいるが、正直いって今のと

ころ手探りの状態である。
しかし何と言おうと就職協定は廃止になつたのだから、これにどう対応するかを真剣に考えなければならない。

ここで冷静に考えてみよう。

就職協定が廃止になつたからといって企業の採用プロセスが変わらわけではないし、又企業が求める人物像が変わらざるを得ない。ただ、採用活動のスタート時期が少し早くなつたということである。確かに、すでに多くの企業で会社説明会が始まっているし、中にはこの会社説明会を第一選考と位置づけて面接や筆記試験を行うところもあるようだ。

しかし、学生諸君はあせることなく学事日程に従い、しっかりと勉強してもらいたい。企業もそれを望んでいるはずである。

本人に実力がなければ企業からの内定はもらえない。実力さえあれば就職協定がどうなろうと心配ないのだ。必要なのは本人の実力と、どうしても就職するのだという熱意と執念だ。そして今までの就職ガイダンスで種々説明して来た就職活動の基本動作を一つ一つ確実にこなして行くことである。就職対策講座をもう一度復習し、自己分析をしっかりと行い、どんな業種で、どんな仕事をしたいのかをはつきりさせ、企業研究をしっかり行った上で会社訪問をして自己PRをする等万全の策を講じて望めばおのずから道はひらける。

就職協定が廃止になったからといって特別な対応策があるわけではない。

今まで通り基本動作の積み重ねで勝利を勝ち取ろう。

新四年次生諸君の健闘を祈ります。

学内合同企業説明会を開催!!

恒例の学内での合同企業説明会を今年は春休み中ではあったが14社の企業にご協力いただき2月27日・28日の両日に亘って開催した。

この企業説明会は就職指導の一環として第一期生の時から実施しており、今年は延べ280余名の学生が参加し一時半から三時間余に亘って会場は学生諸君の熱気に包まれた。

日頃ジー・パンスタイルが定番のキャンパスもこの日ばかりは新調したてのリクルートスーツに身を固め、皆真剣な面持ちで人事担当者の話に耳を傾けていた。中には買つたばかりの履き慣れない靴のため踵に靴ずれができて痛々しい姿の女子学生の姿もみられたが、日頃とは全く別人のような姿に感動を覚えた。

大半の学生がこの日初めて企業の方と接した訳で、熱心にメモを取つたり事前に送つていただいた資料を元に突込んだ質問をしたり、その席で会社訪問の予約をしたりと、例年なく積極的な学生が多くあったように思われる。

三月中旬から本格化する学



2月27・28日 合同企業説明会

第3期生就職内定率 ('97.3.31)

分類	全 体	男 子	女 子
内 定 率	90.7%	91.0%	90.4%

内定先の業種別分類 ('97.3.18)

分類	全 体	男 子	女 子
建設・不動産	9.0%	10.0%	8.0%
製 造	13.6%	13.7%	13.3%
運輸・通信業	1.9%	2.5%	1.4%
卸・小売業	40.7%	47.5%	33.3%
金融・保険	11.6%	6.3%	17.3%
サ ー ビ ス	18.7%	16.2%	21.3%
公 务	4.5%	3.8%	5.4%

外での合同企業説明会の前に、その雰囲気や参加の仕方などを経験できることも有意義であった。

説明会終了後の企業との意見交換会でも、今年は積極的な学生が多く、今まで抱いていた敬和学園大学の学生に対するイメージが変わった、といった嬉しいお話しも頂戴した。しかしその反面、合同企業説明会에서도選考されているということを知り、もっと自己PRをしてもよいのではないか、といった指摘もありこの辺については今

後の指導の参考にして行きたいと思つている。

また、学生からは二日に分けず一日でまとめてやれば待ち時間も少なくなり、より多くの企業の話を聞けるのではないかといった要望があり来年の課題として検討して行きたいたい。

企業の皆様には月末の多忙の中ご協力いただき当初の目的を達成することが出来たことを深く感謝するとともに、參加した学生諸君には、折角のこの出会いを大切にし、今後は会社訪問をするなど今後の就職活動に結びつけるべくより一層積極的な行動をするよう期待している。

就職相談室長
石田 幸夫

敬和学園大学の退職にあたつて

英語英米文学科 助教授 野 村 啓 治

私は母校が二つありますが、この度、その内の一つである東京経済大学から招聘を受け助教授として転任することになりました。

私の入学した年は東京大学の入試が中止となるなど、全国で学生運動が非常に盛んな時代でした。そんな折、当時流行のマルクス経済学に興味を持って東京経済大学へ入学しましたが、なぜか経済学より英語に興味を覚えてゼミでスピーチ・コミュニケーション学の初步を学びました。在学中のESSや国際学生会議活動等を通して英語への興味は高まり卒業後ウイスconsin大学コミュニケーション学部の3年次に編入学し、スピーチ・コミュニケーション学を専攻しました。そのまま大学院まで進みましたが、それが敬和学園大学への赴任、そして母校への転任へと連なるとは考えてもみなかつたことです。

転任先での所属は経営学部ですが、英語コミュニケーションを中心とした科目を担当します。2年前に新設されたコミュニケーション学部の専門科目も兼担します。転任先では「火中の栗を拾う」ことになるのか「何事にも時があり天の下の出来事にはすべて定められた時がある」（コヘレトの言葉3・1）なのかな私はわかりませんが、今回の転任も全て神の摂理に生かされていふことを信じたいと思います。

住居は現在の地から東京へは移さず、週の前半は白根の自宅、後半は東京での单身生活となります。皆さんとも何時か新幹線私をつくった。私が敬和学園大学をつくっ

でお会いするようなこともあるかもしれません、その節はまた親しくお話ししができますことを願っております。

私は敬和学園を完全には去り難い思いがあります。それは妻が敬和学園高校出身ということもあって、故大田俊雄先生の話やご著書に触れ敬和教育の精神に感動を覚えたこと、モス先生ご夫妻の献身的なお勤めに敬服を覚えたこと、榎本校長のメッセージに感動したこと、北垣学長の新島襄の想いの継承への敬服の念、敬和学園大学開設小史の話、私自身の信仰との関わり等が入り交じり、私の心の中の敬和との細い糸を断ち切れない思いがあるからです。その意味で今後也非常勤講師として、週1日ないし2日敬和学園大学で継続勤務でできますことを嬉しく思っています。

5年前、開学2年目の敬和学園大学に就任当時は歓和の教壇に立てることに感動的な喜びを覚えました。以来、講義ではコミュニケーション論と英語を担当してきました。ゼミでは英語演説と異文化コミュニケーションを研究テーマとし、敬和祭では例年「英語演説会」を開催してきました。委員会は国際交流委員を中心活動し、主に海外短期留学関係を担当してきました。ふり返り、専任教員として敬和教育に自分が何を成し得たかと思うと、自分の未熟さに反省の念を禁じ得ません。しかし、北垣学長の第一回入学式でのメッセージ「敬和学園大学が

た。」に対して、ささやかながら「イエス」と答える自分に誇りを持ちたいと思います。

5年間専任教員として皆様にお交わりをいただき心より感謝申し上げます。これからは東京経済大学においても敬和学園大学で培ったことを大切にして、教育研究活動に邁進する所存であります。

最後に学生のみなさんへ私の敬和学園大学の教壇に馳せる思いを記して終わりたいと思います。

「私達日本人が英語を用いて、異なる文化を背景を持つ外国人とコミュニケーション活動を円滑に行うには言葉をはじめ様々な困難が伴います。それはすでに身に付いた。」



◆3月14日送別会にて(オークラホテル新潟)
左から塩屋先生、西澤先生、野村先生

ている風俗習慣、社会通念、思考形態、価値観等を含む母国文化と外国文化との間の摩擦からくる文化差異を体験することでもあります。そのような異質の文化に触ることは人の体験を豊かにし、視野を広めます。それは必ずしも外国に滞在しなくとも学問を通して也可能なことです。冷静な目で自己文化と異文化とを比べ、日本と自分自身を相対的に眺める機会を持つことは、自己のアイデンティティを模索することであります。それは自分の幅を広げ、自己の向上を促し、自信の源にも結びつき、強いては他人を思いやる人間愛にも繋がるのだと私は思っています。英語を学ぶ目的は人それぞれに異なりますが、今日の国際語である英語をコミュニケーションの視点から研究する意義はここに結びつくのだと私は思っています。そして学生のみなさんがグローバルな見地から己の自由に感謝し、神への畏敬の念を育んでくれることを願っています。」

今まで皆様に心暖かいお交わりをいただき、ありがとうございました。これから是非常勤講師として今まで同様よろしくお願いいたします。

敬和学園大学の思い出

国際文化学科教授 塩屋 保

私にとって敬和学園大学での4年間は、あまりにも思い出が多すぎて、今の気持ちを文章にすることは難しい。そこで、これまで何度かあった人生の節目で、私がいつも読み返してきた Robert Frost の “The Road Not Taken” という詩を以下に引用して、敬和学園大学の皆さんへの私の別れの言葉としたいと思う。

THE ROAD NOT TAKEN

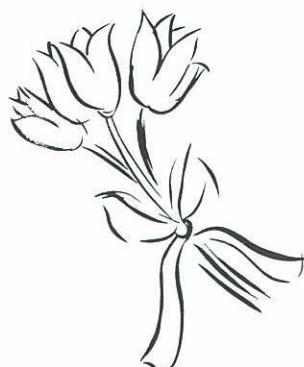
Two roads diverged in a yellow wood,
And sorry I could not travel both
And be one traveler, long I stood
And looked down one as far as I could
To where it bent in the undergrowth;

Then took the other, as just as fair,
And having perhaps the better claim,
Because it was grassy and wanted wear;
Though as for that the passing there
Had worn them really about the same,

And both that morning equally lay
In leaves no step had trodden black.

Oh, I kept the first for another day!
Yet knowing how way leads on to way,
I doubted if I should ever come back.

I shall be telling this with a sigh
Somewhere ages and ages hence:
Two roads diverged in a wood, and I—
I took the one less traveled by,
And that has made all the difference.



敬和学園大学『卒業』にあたつて

国際文化学科 助教授 西澤昭夫

1997年3月20日、3月下旬の新潟には珍しい好天のもと、敬和学園大学第3回卒業式が盛大に挙行され、233名の卒業生が社会に巣立っていった。4年前、1993年4月に今回の卒業生が本学に入学したのと同じ時に、私も『入学』し、本年3月31日をもって、本学を『卒業』させて頂くことになった。

私は、恩師でもあり、本学創設に多少関係のあった新潟大学名誉教授公文道明先生の紹介で、本学に『入学』したのであるが、民間企業から大学への直接『異動』であったため、「若葉マーク」の新米大学教員として、当初2年間は演習が担当出来ないなどの迷惑をお掛けすることになってしまった。そのため今回の卒業生が、最初の演習生であった。しかも、大学教員もしくは研究者としての「常識」も弁えておらず、「正統派」の先生方とは余計な不協和音を引き起こし、これ又多大な迷惑をお掛け致したようである。

「しかし」と言うべきか、「そうであるがゆえに」と言うべきか、早急に大学教員としての「常識」を身に付けるため、就職委員会を始めとする各種学内委員会はもとより、自己点検委員会等を通じ、大学運営のイロハを学ぼうと試みた。又研究業績についても、地域貢献に關しても、最大限の努力を払ってきたつもりである。無論、自己満足の説ひは、甘んじて受けざるを得ないものではあるが。

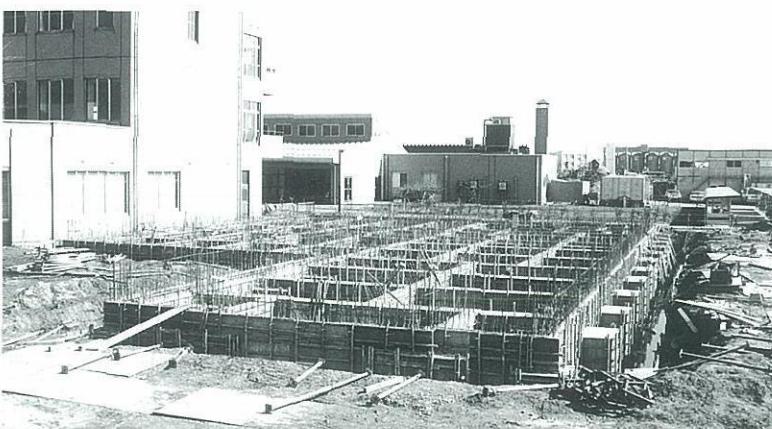
さらに、卒業論文選択化の流れに抗して、最初の演習参加者には、2年連続かつ卒業論文を必修とし、全員の卒業論文を論文集に纏めるので、誰一人脱落してはならないという連帯責任圧力のもと、卒業論文作成を促すという、過重な負担を掛けてしまった。だが、限られた資料と情報、不十分な指導という極めて困難な状況にも拘わらず、演習参加者全員が、こうした新米大学教員の「無理難題」に十分応え、期待以上の成果を出してくれたのである。演習に参加した諸君が、「足らざる」点を「知恵」で埋めるという、正に「アントレプレナーシップ」を大いに發揮してくれたことに、大変感謝している。その意味でも、私の大学教員としての歩みは、今回の卒業生と共にあつた、と言つても過言ではない。

にも拘わらず、「卒業旅行において、国境の意味や、国際的コミュニケーション力の欠落という課題に改めて気付かされた」と、演習参加者から聞かされたとき、教員としての自らの無能力さを思い知らされたのも、偽らざる事実である。

今後は、こうした敬和学園大学での経験と反省に立ち、もう少しレベルの高い教育と研究を行ってゆく所存である。それを通じて、わが国大学教育の現代化に、少しでも寄与していくたい。

最後に、この4年間ご教示、ご叱正を賜った学生、教職員の方々に深くお礼を申し上げたい。本当に有難うございました。

校舎 増築工事



3月28日 撮影

1997年度入学試験を終えて

入試室主幹 西村秀雄

さる3月19日、本学キャンパスにおいて一般入学試験（後期日程）の合格者が発表され、1997年度の入学試験はすべて無事に終了しました。地元テレビ局が一般入試（前期日程）合格発表の様子とあわせて報道しましたので存知の方もいらっしゃるかと思いますが、今年度から合格者の発表については従来の受験番号と氏名の公表という方法を受験番号のみの公表に改めました。これは受験・合格者の個人情報保護の観点から入試委員会および教授会で決定したもので。でも中には「自分の名前を掲示板や地元紙で見たかった」という方がいらっしゃるかもしれませんね。

さて新聞でも大きく報道されております

ように、1997年度の入学試験は私立大

学、とりわけ地方の私立大学にとってきわめて厳しく、近隣の大学は志願者を大幅に減らしております。残念ながら本学も志願者が20%ほど減少してしまいました。しか

し新潟県内の受験生については志願状況が

堅調でしたし、受験・合格者の内容にも何

ら問題はないと判断しています。入学手続きは順調で、今回は特にセンター入試での入学者が多くなっています。4月の入学式では両学科ともに約135名ずつの新入生を迎えることになるでしょう。

ですが、四年制大学への志願率は女子を中心に上昇し続けるものと予測されています。本学のユニークな教育理念と教育内容を、つまり本学の「良さ」をいかに受験生や保護者に的確に伝えて、本学にふさわしい学生をどのようにして安定的に確保するか……。たいへん難しい課題ですが、これらも教職員が力をあわせて努力いたしますので、皆様のご理解とご支援のほどをお願いいたします。



1997年度入学試験結果

区分		募集人員	志願者数	志願倍率	受験者数	合格者数	競争率	入学者数
推薦入試	英語英米文学科	45	64	1.4	63	60	1.1	60
	国際文化学科	45	73	1.6	73	61	1.2	61
	小計	90	137	1.5	136	121	1.1	121
一般入試(前期日程)	英語英米文学科	35	141	4.0	138	102	1.4	38
	国際文化学科	35	202	5.8	199	113	1.8	42
	小計	70	343	4.9	337	215	1.6	80
一般入試(後期日程)	英語英米文学科	10	24	2.4	22	20	2.2	
	国際文化学科	10	30	3.0	25	17	1.5	
	小計	20	54	2.7	47	27	1.7	
一般入試(センター)	英語英米文学科	10	122	12.2	122	84	1.5	30
	国際文化学科	10	129	12.9	129	73	1.8	16
	小計	20	251	12.6	251	157	1.6	46
合計	英語英米文学科	100	351	3.5	345	256	1.3	128
	国際文化学科	100	434	4.3	426	264	1.6	121
	計	200	785	3.9	771	520	1.5	249

※データは3月20日現在のものですので、入学者数は今後も変動します。また、入学者数（合計）には国際文化学科の留学生（2名）を含みます。

学長室だより

学生諸君にとて春休みの時期は、大学の繁忙期です。先生方は学年末試験の採点とレポートの点検をし、学生諸君の成績を教務課に報告しなくてはなりません。教務課はそれを学生それぞれの成績原簿に打ち込み、卒業予定年次の学生のための卒業判定資料を作ります。二科目以内の欠点で卒業ができない人のために、再試験の担当者と打ち合せの上でスケデュールを組み、当該学生に連絡します。このようなプロセスが進行する一方、二月一日の入学試験（前期日程）と三月十三日の入学試験（後期日程）の準備もします。と同時に、三月二十日の卒業式の準備、四月四日の入学式の準備も怠りがちではありません。これは実に残酷な季節だといえます。

今回学園を去られるもう一人の先生は契約講師のアニー・ボラツェック先生です。先生は敬和で二年間、非常に熱心に英語を教えてもらいました。日本の生活を十分に楽しむ人でもあり、チャリティー・バザーなどで珍しいものを探している先生を見かけたこともあります。自転車を愛用し、いつもやや猛吹雪の中を、矢のように自転車を漕いでいらっしゃるのを目撃しました。

前回ちょっとふれた、四月からの新任の先生は、矢嶋直規（やじま・なおき）専任講師（人間学、環境倫理学、文化論演習担当）と福王守（ふくおう・まもる）専任講

師（国際法、国際機構論、国際関係演習担当）です。三十代初期の若い先生二人が加わって下さることにより、大学自体が若返った感じがします。

ところで私たちは二月五日の晩から六日の正午にかけて、大学開学以来はじめてのファカルティ・リトリートを胎内パーク・ホテルで開催しました。教員二十一名と、事務局から局長と両課長、計二十四名が参加し、夕食ののち延原時行宗教部長による開会礼拝、私の発題「敬和学園大学の質を高めるための七つの提案」と、それをめぐる自由討議のひと時を夜遅くまで持ちました。翌朝は山田耕太教授担当の朝礼拝、北嶋藤郷教授と永野茂洋助教授による発題、自由討議、延原教授による閉会礼拝をもつて終了しました。さまざま問題を出してい、いろんな角度から検討を加えました。

敬和学園大学の質を高め、敬和のアイデンティティを確立するために、教職員それぞれが与えられている才能をフルに生かして貢献していくような学園の形成をはかりたい、という決意で一致できたように思いました。日頃カラクリの批評をする某先生が今回のリトリートは案外よかったです、と洩らされたので、主催者としては面目をほどこしました。自己満足におちいることなく、今後もこのような自由な討議を積み重ねていきたいと考えています。

第三期生の就職内定率は三月二十九日現在で、全体では九〇、七パーセントに達しました。第三期生もなかなかよく奮闘しました。ご承知のように現三年次生である第四期生の場合は、就職協定の廃止と、新潟県下の後発三大学と一学部のはじめての卒

業生との競争という、二重の試練に直面することになりました。そのため本学の就職相談室は早くから四期生の諸君に自覚をうながし、すでに何回かにわたって、企業の合同説明会を開いています。

すばらしく晴れわたった三月二十日、第三回卒業式を新発田市市民文化会館で挙行し、二百三十三名の諸君が卒業していくました。大学は学科の成績優秀者である志賀礼さん（英）と肥田野理恵さん（国）、開会礼拝に見事に卒業した滝澤朋子さん、滝澤さんを献身的に助け、ボランティア精神の模範であった佐藤麻理さんを表彰しました。その夕方、新潟グランド・ホテルで行なわれた卒業祝賀会はいやが上にも盛り上がりを見せ、名残りはいつまでもつきませんでした。

前号以降に次の四名の卒業生が母校のためにそれぞれ一万円をさしだしました。ご芳名を記してお志を讀えます。

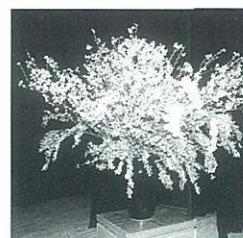
一期生。樋口創、早川洋、飯沼正志、高田直樹（累計四十名）



1月28日 ケリー・ニューエル
奨学金授与式 安藤典子さん
祝福あれ。（北垣宗治）

『讃美歌21』—新しい贊美歌の息吹!

横坂 康彦



九楽園さん作成

二月二十日、待望の『讃美歌21』が出版された。『改訂讃美歌試用版』（一九九二年）によって関心は高まっていたものの、この新歌集に対する反応は私を含めて改訂に関わった人たちの期待をはるかに上回るものであった。歌集は発売後一週間で二万部以上が売れ、大阪女子学院と青山学院で持たれた奉獻式には大勢の人たちがつめかけ、新歌集の誕生を祝った。

時おり誤解されるのだが、『讃美歌』は世界共通ではない。どこかに一冊の原本があつて、それがいろんな国語に訳されて歌われているのならある意味では楽なのだが、世界中に散らばっている各教派や教会にはそれぞれに固有の伝統があり、分裂や統合を繰り返す複雑な歴史を抱えているため、そう簡単ではない。例えばドイツの代表的なEKG (Evangelisches Kirchengesangbuch, 1950) という歌集は、ルターに始まるドイツの伝統的な教会歌に重点を置いてきたが、カルヴァンを出発とする改革派系の歌集では、カルヴァン自身が推進した詩編歌（詩編を歌える形に整えて贊美歌のように歌うもの）を重視するという具合である。

『讃美歌21』に至る今回の改訂作業の特徴は、七〇年代以降にアメリカを中心として起こった世界的な歌集改訂の波と重なったということだろう。だから、現代の優れた贊美歌群の多くを取り入れることや、近年、飛躍的に伸びた贊美歌学の方法論を反映させることができた。

具体的には、ラテン語やギリシャ語、またドイツ・コラールやフランス語詩編歌といった古典的贊美歌遺産のうちで、旧版にない名作や独創的な魅力を持つ歌が採用されたり、英語、ドイツ語、フランス語、オランダ語などを中心とする現代の創作贊美歌（珍しいものではヒューロン語など）、

聖書と違い、贊美歌は信徒たちの信仰心の自由な発露としていつの時代にも書き継がれている。だから贊美歌集は、それぞれ

の時代や教会（宣教活動）や信仰生活などを浮き彫りにする一方で、次の時代の公同礼拝に相応しい形に改められていくのがふつうである。この改訂の周期はほぼ三十年と言われており、つい先日まで現行『讃美歌』と呼ばれていた一九五四年版『讃美歌』も、その大本の歌集である一九〇三年版と次の三年版を経てできあがったものである。『讃美歌21』は五四年版から四三年かかってはいるが、改訂の準備自体はすでに七〇年代に始まっていた。さきのEKGも九三年に改訂新版が出てEG (Evangelisches Gesangbuch)となり、内容が一新されたばかりだ。

『讃美歌21』に至る今回の改訂作業の特徴は、七〇年代以降にアメリカを中心として起こった世界的な歌集改訂の波と重なったということだろう。だから、現代の優れた贊美歌群の多くを取り入れることや、近年、飛躍的に伸びた贊美歌学の方法論を反映させることができた。

紙面の都合で詳しい説明はできないが、『礼拝と音楽』第九三号（日本基督教団出版局四月発売予定）を参考し、ぜひ新しい贊美歌に親しんでいただきたい。なお文中、『讃美歌』には「贊」の字を用い、「讃美歌」など固有名詞の場合のみ「讃」を用いた。（敬和学園大学非常勤講師・新潟大学助教授）

学生諸君のホームページを覗く

このたび安藤司文教授のご指導により、三十名の学生諸君がバイノーラルの教科卒業

の中に学生のページを開いた。四年生が半数以上を占めているが、三年生、一年生も登場する。中心になっているのは四年生の木津ともみさんで、彼女もこんどめでたく卒業した。

校生が敬和に行きたい、という気持ちを起こしてくれることを願っている。学生たちは敬和学園大学の長所と短所はきちんと把握している。敬和学園大学のよいところ。それは小さく大

学で、アット・ホームで、学内で迷子になることもなく、友達が「雪だるま」式に作れるし、という指摘が多くて学生からなされている。大學が自分を何年生としてとか、何々グループと

とが嬉しい。また、カリキュラムにゆとりがある
ので、学科の狭い枠に縛られず、いろんな勉
強ができる点もよい。ボランティア活動に参加
できることから、という意見もある。また、アメ

リカ・イギリスへの短期留学（とくにサンバナディーン）は非常に好評である。多くの学生が自分の好きな科目と、好きな先生の名前を具体的にあげている。

敬和には全学の人気を一人でかっさらうような先生はいないらしい。それは多分健全なことであろう。学バスの運転手の親切には複数の学生が感謝の気持ちを表している。購入のおねえさんはいつまでも元気でいてほしいと心から願っている。

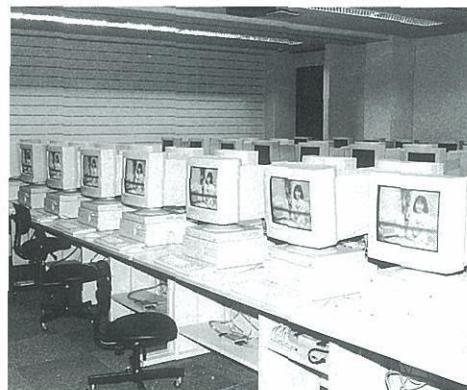
職相談室が親切だとほめる学生もある。しかし事務職員にもっと親切にしてほしいという声が

予想外に多い。

たしかに苟利にはし学校ではあるが、ノーブルな立場ではない。学生たちは欠点を指摘する場合にも、なんら躊躇はしない。いちばん多い指摘はキャンパスに体育館がないことで、遠くて古い体育館に通わなくてならなかつたことを残念がっている。しかしこれはあと半年間の辛抱である。新体育館が利用できる新入生を羨む声もあつた。また駐車場が狭いことを訴える人もいた。それと、学生食堂の提供する食事が高いとの指摘もある。

を受ける。好きなメニューとして「肉おにぎり」、牛丼、日替わり定食などがあがっていた。

敬和学園大学はキリスト教主義教育に力を入れてきたつもりであるが、そのことに触れた学生は皆無であった。一人だけ「チャペルを必修にするな」と書いていた。



新装なったCPU教室

た。机種、授業形態、7年、時の早さ、いや進月歩の改良の早さに、たパソコンを教室の用パソコンとの画像転写する計画で、入るか配列を変えることによって、ウインドウズNT4・95よりはウインドウズNT4・95より、ペントアムプロ種だ。

テム引き続き採用し、用パソコンとの画像転写する計画で、入るか配列を変えることによって、ウインドウズNT4・95より、ペントアムプロ種だ。

トに対応可能とした。ダーを設置し、スクリーにその画像を学生用パソコンに転送出来るようになっている。プリンターは、共有でモノ黒レーザープリンターザープリンターワ台を設備した。

総事業費は約四、一〇〇万円。これを五年のリース契約とするが、五年後にはまたどういう進歩を遂げているか、楽しみでもあり、戦々恐々でもありといったところ。

CPU教室の パソコン入れ替え

既存のパソコンを選定するにあたり開学前に何度も東京で安藤司文教授と打ち合わせをした

従来のPCゼミのシステムを引き続き採用しているので、教卓と学生用パソコンとの画像転送が可能であることはもちろん、CPU準備室にサーバ（ウインドウズNTサーバ4・0）を設置したことにより、ネットワーク化し、学内ラン、及びインターネットに対応可能とした。

更に新たにプロジェクターを設置し、スクリーンに映し出しながら同時にその画像を学生用パ

新
総事業費は約四、一〇〇万円。これを五年

君はヘイル・ボップ彗星を見たか？

北垣宗治

学生諸君にむかって申したいのですが、諸君はヘイル・ボップ彗星を見ましたか？

この彗星がこの次現わるのは二千四百年後だということです。しかし、なぜいまへイル・ボップ彗星なのでしょうか。

ほくは新発田の夕暮とき　日本海の上には
輝くヘイル・ボップ彗星を見て、感動を覚
えました。それは彗星をはじめて見たから
だけではありません。この彗星は実際に多く
のことを考えさせるからです。

若いころはよくは儲か4ヶ月間アリカの
アーモスト大学に留学していました。(つ
いでながら本学の金山愛子先生はその大学
の内村鑑三スカラでした)ぼくの在学し
たのは一九五七年前半でしたが、後半に
なって世界を揺るがす大事件が起きました。
た。それはソ連が世界初の宇宙衛星スプー
トニクを打ち上げたことでした。アメリカ
は宇宙開発の競争で、はっきりとソ連に差
をつけられたのです。これはアメリカの威
信にかかる問題であり、大統領も議会も
大学も、くやしさの中で深く反省し、大車
輪で巻返しをはかりました。この「大車輪
で巻返しをはかる」ことはアメリカのお家
芸なのでしょう。太平洋戦争の緒戦で日本
に大敗したアメリカは、まさにそれをやつ

日本を賤方に近い近い方のへいかがり
二三つごくまことに、易國して、かの話が二

ところでほくか帰国してからの話です

ると、ふだん何百ページもの宿題を出して学生たちを教育的にぎゅうぎゅういわせるイギリス文学史の教授が、「今日はいつもとは違う宿題を出します。諸君は明朝四時

Then I felt like some watcher of the skies
When a new planet swims into his ken;
(その時私は、新しい星が視界の中に泳ぎ
こむのを見付けた時の、夜空の観察者のよ
うに感じた)

と表現したのでした。その感動を追体験させるためには、スパートニクを直接見せるのがもとも手っ取りばやいやり方であつたと、今にして思うのです。

ヘイル・ボップ彗星を発見したヘイル氏とボップ氏は、ともにアメリカのアマチュア天文学者で、大学教授ではありません。しかし、その発見を承認し、ヘイル・ボップ彗星と呼ぶことを正式に認めたのはハーヴィード大学の天文台です。

この彗星を地球人が前回見た四千二百年前は、文明の始まる時期で、ナイル川のほとりには出来たてのピラミッドが輝いていました。この彗星が再び巡りくるのは二千四百年後です。いま人類は、その時までこの地球の文明が保てるようになると、環境を大切に保護し、平和をしつかりと守っていく決意を固めなくてはなりません。

ぼくはこの話を聞いて、アメリカのすぐれた大学は、ほんとうに面白いことをするものだと感じりました。イギリスの文学史とソ連の人工衛星に何の関係があるのでしょうか。何の関係もなさそうに見えるところに関係を発見させること、これがどうも、あの大学のリベラル・アーツ教育の根本にあるような気がします。人間が初めて宇宙にむかって打ち上げた人工衛星は大き

キャンパス日誌

2月

- 1日 一般入試・前期日程
- 5日 教授会
- 5・6日 第1回ファカルティ・リトリート
(胎内パークホテル)
- 10日 一般入試・前期日程、大学入試センター試験
利用入試、及び外国人留学生入試合格発表
- 19日～3月6日 一般入試・後期日程願書受付
- 23日～3月30日 春季短期留学アングロコンチ
ネンタル 3名参加
- 27・28日 合同企業説明会

▲2/27
合同
企業
説明会



3月

- 12日～ CPU教室/パソコン入れ替え工事



▲CPU教室

- 13日 一般入試・後期日程
- 14日 教授会



▲3/15～20 グラウンドの防球ネット
後援会の補助事業

- 19日 一般入試・後期日程合格発表



▲3/19
合格発表



▲3/20 卒業式・学位記授与

- 20日 第3回卒業式
- 21日 理事会・評議員会
- 26～28日 4月1日採用職員就任前研修
- 28日 敬和学園大学後援会役員会

4月

- 1日 採用教職員辞令交付
- 4日 入学式
- 敬和学園大学後援会総会

▲3/15～20
グラウンドの防球ネット
後援会の補助事業